

令和元年度 外国人児童生徒等における教科書用図書の使用上の困難の軽減に関する検討会議資料（令和元年 8 月 14 日）

## 外国人児童生徒等における教科用図書の使用について

豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育相談員 築樋博子

豊橋市は、愛知県東部の中核市で人口 377,303 人、そのうち外国人住民は 17,219 人の外国人集住都市である（平成 30 年 12 月 1 日現在）。市内には製造業を中心とした中小企業が多く、近隣地域には自動車関連の大規模工場もあり、多くの外国人住民を受け入れる環境にある。

今年度、市内の小中学校に在籍している「外国人児童生徒（日本国籍を有し、外国にルーツのある児童生徒を含む）」は、小学校が 1,302 人、中学校が 595 人である。その内「日本語指導が必要な児童生徒」は、小学生が 1,056 人で、市内の小学校 52 校中 39 校に在籍をしている。中学生は 491 人で、中学校 22 校中 17 校に在籍をしている。

豊橋市の小・中学校では、平成 26 年度から「特別の教育課程」による日本語指導をスタートさせた。「特別の教育課程」による日本語指導では、「個別の指導計画<sup>1</sup>」の作成が求められている。「個別の指導計画」作成に当たっては、個々の日本語の力を把握する必要がある。豊橋市では、この日本語の力の把握のために、「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA<sup>2</sup>（以下、DLA と記載）」（文部科学省 平成 26 年）や、「「個別の指導計画」作成参考資料②学習目標例～初期段階～<sup>3</sup>（以下、学習目標例と記載）」（日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議 平成 26 年）を活用し、共通のスケールとしている。

「特別の教育課程」による日本語指導では、「指導内容<sup>4</sup>」を「日本語の能力に応じた特別の指導は、児童又は生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的とする指導とすること」とされ、学年相応の教科の学習に参加する力の育成が求められている。そのため日本語指導において、「日本語と教科の統合学習」を行っている。

今回のアンケートは、日本語指導の担当者を対象とした「DLA」の研修会で実施した。回答してくださったのは、小・中学校で日本語指導を担当する教員、校務分掌で外国人教育を担当する教員、市教委の日本語指導を担当する教育相談員である。日本語指導に関わる経験年数には差があるが、アンケートに回答した教員のほとんどが、「特別の教育課程」による日本語指導の「個別の指導計画」の書き方の研修を受けている。

このアンケートでは、日本語指導が必要な児童生徒の日本語の力の段階を、「DLA」や「学習目標例」で示されている「DLA 評価参照枠」のステージで表している。

### \* 日本語指導の担当としての経験年数を教えてください。

	1 年未満	1～2 年未満	2～3 年未満	3 年以上	5 年以上	合計
小学校	11 人	4 人	3 人	5 人	17 人	40 人
中学校	8 人	3 人	4 人	0 人	5 人	20 人

<sup>1</sup> 豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育資料 HP に「個別の指導計画」の豊橋版のフォームを公開している。

<http://www.gaikoku.toyohashi.ed.jp/tokubetunokyoiukukatei/tokubetuindex.html>

<sup>2</sup> 「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm)

<sup>3</sup> 「個別の指導計画」作成参考資料②学習目標例～初期段階～」

<https://casta-net.mext.go.jp/kyouzai/facet/10/103+105/8/101/2/33/12/194>

<sup>4</sup> 「学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の施行について（通知）」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm)

【1】日本語指導が必要な児童生徒の取り出し指導（「特別の教育課程」による日本語指導）に教科書を使っていますか。

	日本語の およそのステージ	教科書		教科書を使用する指導の割合
		使っている	使っていない	
小学校	ステージ1, 2	使っている	27人	81.8%
		使っていない	6人	
	ステージ3, 4	使っている	29人	93.5%
		使っていない	2人	
	ステージ5, 6	使っている	24人	96%
		使っていない	1人	

	日本語の およそのステージ	教科書		教科書を使用する指導の割合
		使っている	使っていない	
中学校	ステージ1, 2	使っている	11人	57.9%
		使っていない	8人	
	ステージ3, 4	使っている	11人	100%
		使っていない	0人	
	ステージ5, 6	使っている	9人	100%
		使っていない	0人	

アンケートに回答した全ての教員が、全てのステージの児童生徒を教えているわけではないので、各ステージの人数にばらつきはある。

小学校では、日本語のステージに関わらず、概ね全ての対象児童に教科書を使った指導を行っている。中学校では日本語のステージが低い時期には、日本語基礎の指導が中心になるため、教科書を使わないことが多い。しかし、ステージが少し上がると教科書を使う指導が100%になる。これは中学校卒業後の進路を見据え、積極的に「日本語と教科の統合学習」を行っているためと考えられる。

教科書を使っている場合、どの教科ですか。

	日本語の およそのステージ	回答数	教科書を使用する教科 (人)
小学校	ステージ1, 2	33	国語(23) 算数(23) 生活(2) 社会(2) 理科(1) その他( )
	ステージ3, 4	31	国語(26) 算数(24) 生活(3) 社会(3) 理科(3) その他( )
	ステージ5, 6	25	国語(20) 算数(19) 生活(2) 社会(5) 理科(3) その他( )

	日本語の およそのステージ	回答数	教科書を使用する教科 (人)
中学校	ステージ1, 2	19	国語(3) 数学(6) 社会(1) 理科(2) 英語(6) 音楽(4) 美術(4) 保健体育(0) 技術家庭(1) 道徳(1)
	ステージ3, 4	11	国語(8) 数学(10) 社会(5) 理科(6) 英語(5) 音楽(2) 美術(2) 保健体育(2) 技術家庭(2) 道徳(1)
	ステージ5, 6	9	国語(9) 数学(8) 社会(5) 理科(5) 英語(4) 音楽(1) 美術(1) 保健体育(1) 技術家庭(1) 道徳(0)

豊橋市内の小学校では、日本語の取り出し指導で主に「国語」と「算数」を指導している。そのため日本語のステージに関わらず、この2教科の教科書を使っている。2教科以外の教科の教科書の読みにも困難さはあるが、取り出し指導では他の教科の支援までは至らないのが現状である。

一方中学校では、日本語のステージが低い時には、言語（日本語）の負担が大きい「国語」や「社会」の教科書を使う指導は少ないが、ステージが上がると「国語」や「社会」の教科書を使った指導を行うようになる。これは、ステージが上がっても取り出し指導の中で支援をしなければ、教科学習の理解が難しいからである。また、中学校では技能系の教科書について、教科書を使って指導を行っている。これは、定期テストの事前指導などを行う学校があることなどの理由が考えられる。

このように日本語指導において教科書を使うことが多いが、教科書の「読み」に困難さを感じている教員は非常に多い。

## 【2】教科書を読むとき、日本語指導が必要な児童生徒は困難がありますか。

	日本語のおよそのステージ	「読み」の困難の有無		困難があるという回答の割合
		困難がある	困難はない	
小学校	ステージ1, 2	困難がある	32人	100%
		困難はない	0人	
	ステージ3, 4	困難がある	26人	96.3%
		困難はない	1人	
	ステージ5, 6	困難がある	11人	52.4%
		困難はない	10人	

	日本語のおよそのステージ	「読み」の困難の有無		困難があるという回答の割合
		困難がある	困難はない	
中学校	ステージ1, 2	困難がある	19人	100%
		困難はない	0人	
	ステージ3, 4	困難がある	11人	100%
		困難はない	0人	
	ステージ5, 6	困難がある	7人	77.8%
		困難はない	2人	

小学校では、日本語のステージが上がり「ステージ5、6」になると、「困難はない」と回答した教員が半数近くいる。しかし、中学校では日本語のステージが高くなっても、依然として困難さを感じる割合が高い。

では、教員はどのような点で困難さを感じているだろうか。マルチメディアデイジー教科書の申請書の一部を参考に、アンケートの項目を作成した。

「マルチメディアデイジー教科書 申請書 主な読みの困難さ」	
<input type="checkbox"/> A.	逐次読みになってしまう
<input type="checkbox"/> B.	勝手読みをしてしまう
<input type="checkbox"/> C.	特殊音節を読むのが苦手
<input type="checkbox"/> D.	ひらがなが読めない
<input type="checkbox"/> E.	単語の切れ目が判らない
<input type="checkbox"/> F.	漢字や熟語が読めない
<input type="checkbox"/> G.	文の内容が理解できない
<input type="checkbox"/> H.	視覚障害
<input type="checkbox"/> I.	聴覚障害
<input type="checkbox"/> J.	知的障害
<input type="checkbox"/> K.	肢体不自由
<input type="checkbox"/> L.	その他：

【3】教科書の「読み」に困難がある場合、どのような点で困難さを感じますか（複数回答可）

	困難な状況	↓	割合	
			小学校	中学校
1	ひらがなやカタカナが読めない	D	62.5%	40%
2	逐次読みになってしまう（文字を1字ずつ読む）	A	77.5%	35%
3	勝手読みをしてしまう	B	52.5%	35%
4	特殊音節（促音、長音、拗音を含んだ単語）を読むのが苦手	C	70%	45%
5	単語や文節の切れ目が判らない	E	80%	65%
6	漢字や熟語が読めない	F	82.5%	85%
7	文中の語彙が理解できない		62.5%	80%
8	文の係り受けが理解できない		50%	55%
9	文の内容が理解できない	G	75%	85%
10	その他 ・教科の学力が教科書のレベルに達していない。 ・1人1人に差がある。 ・例えば、社会科の用語が読めない、読んでも母国語の意味とリンクしない。			

デイジー教科書の申請書に記載されている「主な読みの困難さ」は、デイジーが合理的配慮となり得る児童生徒の困難さであると思われるが、大部分が「日本語指導が必要な児童生徒」の読みの困難さと重なる。小学校の児童では、申請書A～Gの全ての項目で高い割合を示している。

中学校では、ひらがなやカタカナの習得など「読み」の基礎的な項目（1～4）については困難と感じる割合が低い。漢字の読みや語彙の理解、文の内容など、教科の内容と密接に関連する項目については、困難さを感じる割合が高かった<sup>5</sup>。

<sup>5</sup> 使用頻度が低く抽象的な概念を示す教科学習言語の習得には、5年以上必要とされている。「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」参照

次に、教科書を使用した指導で「読み」の困難さに対して、どのような支援をしているかを尋ねた。「1特に支援をしていない」と回答したのは1人のみで、59人の教員は支援を行っている。具体的には以下の通りである。

【4】教科書の「読み」に困難がある場合、どのような支援をしていますか。(複数回答可)

	具体的な支援の状況	割合	
		小学校	中学校
1	特に支援をしていない。	0%	5%
2	教科書を拡大コピーしたものを用意する。 ・デイジー：文字の大きさを変更することができる。	17.5%	0%
3	単語や文節の切れ目に印（スラッシュ・斜線）を付ける。 ・デイジー：読んでいるフレーズをハイライトする。	55%	35%
4	読む箇所を指で指し示す。 ・デイジー：読んでいるフレーズをハイライトする。	82.5%	65%
5	漢字にひらがなでルビを付ける ・デイジー：漢字にルビを付けることができる。	87.5%	75%
6	漢字にローマ字でルビを付ける	2.5%	0%
7	ルビの付いた教科書本文を用意する ・デイジー：漢字にルビを付けることができる。	30%	65%
8	語彙がわからないとき、辞書やタブレットを使い母語の意味を調べる。	35%	75%
9	語彙がわからないとき、母語話者の支援者の支援を受ける。	55%	70%
10	語彙がわからないとき、絵事典や図鑑などを使い、視覚的に理解を促す。	70%	55%
11	語彙がわからないとき、易しい日本語で説明をする	77.5%	80%
12	内容がわからないとき、教科書を書き直したリライト教材を用意する	50%	25%
13	内容がわからないとき、教科書のあらすじを用意する	12.5%	10%
14	内容がわからないとき、教科書の翻訳文を用意する	12.5%	15%
15	教科書を音読したものを用意する（音声教材） ・デイジー：文を音声で読んでくれる。	2.5%	0%
16	デジタル教科書を使う	0%	5%
17	その他 ・内容をやさしい日本語で説明する		

「      」の項目は50%以上の教員が実際に行っている支援であるが、「3, 4, 5, 7」の項目は、デイジー教科書の特徴と重なる。また、「8, 9, 10, 11, 12, 13, 14」は、日本語指導で有効と考えられる支援<sup>6</sup>である。実際の指導では、「5漢字にひらがなでルビを付ける」→「8語彙がわからないとき、辞書やタブレットを使い母語の意味を調べる」のように、多様な支援を組み合わせる指導を行っている。

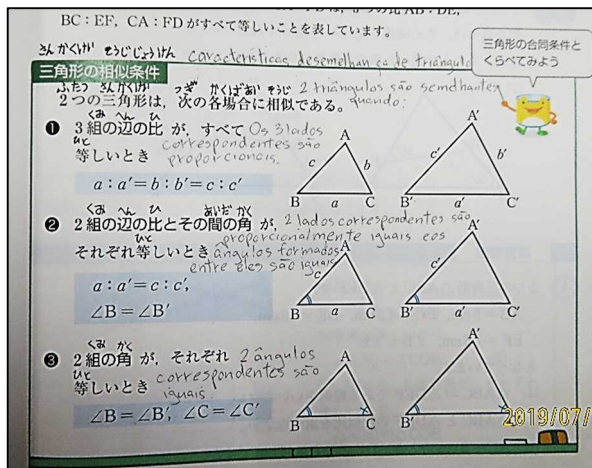
<sup>6</sup> 日本語指導で有効と考えられる支援については、「学校教育におけるJSLカリキュラム（中学校編）－II日本語支援の考え方とその方法」参照（文部科学省 平成19年）  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/001/011/003.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/011/003.htm)

【指導例】

写真は、公立中学校に編入して約2か月のブラジル人生徒の数学の教科書である。ブラジルでは、年齢相応の学習をしていた。数学では、図のような非言語情報によって理解できる部分も多いが、母語で確認することで生徒の既有知識を引き出すこともできる。

この生徒は、

1. まだ教科に関わる漢字を読むことができないため、学習用語にルビを付ける。
  2. 既有知識を引き出すために、教科の語彙集<sup>7</sup>を使って母語で学習用語の確認をする。
  3. 「JSL 数学」の授業を受けた後に理解したことを、改めてポルトガル語で書く。
- という流れで、理解を深めている。



数量・関数領域 (五十音順)	用語	ポルトガル語	用語	よみかた	ポルトガル語
1	値	valor	65	以上平均の上げ	acrescentar para cima
2	算術(乗法)	calculo mental	66	計算	calcular
3	積算	calculo mental	67	係数	coeficiente
4	以下	abaixo de	68	結合法則	regras de combinacao
5	降順	transposicao	69	検算	verificacao de contas
6	以上	acima de	70	原点	ponto de partida
7	関数	funcao	71	傾斜	inclinação de substituição
8	1次関数	funcao de primeiro grau (funcao linear)	72	傾	inclinação
9	1次式	Forma de primeiro grau	73	交換法則	Regras de conversão
10	1次の値	valor de primeiro grau	74	合計	total
11	1次方程式	equação de primeiro grau	75	公式	fórmula
12	1の位	casa de unidade	76	公積数	multiplicador comum
13	1万の位	casa dos dez mil	77	公分母	denominador comum
14	因数	fator	78	分数	fracao
15	因数分解	decomposicao de fatores	79	誤差	erro
16	右辺	lado direito	80	公差	razão
17	座標	coordenada	81	商	quociente
18	軸	eixo	82	平方根	raiz quadrada
19	軸について動く	movimento ao longo do eixo	83	平方	quadrado
20	円グラフ	grafico em circulo	84	平方根	raiz quadrada
21	棒グラフ	grafico em barras	85	最小公倍数	menor múltiplo comum (MMC)
22	長さ	comprimento	86	最小値	valor minimo
23	およそ	aproximadamente	87	最大	maximo
24	およそ	aproximadamente	88	最大公約数	maior divisor comum (MDC)
25	傾	inclinação	89	最大値	valor maximo
26	傾	inclinação	90	最頻値(モード)	numero de maior frequencia (modo)
27	階級	valor médio da classe (média aritmetica)	91	座標	coordenadas
28	階級	valor médio da classe (média aritmetica)	92	座標軸	eixo das coordenadas
29	階級の幅	intervalo da classe	93	座標平面	superficie das coordenadas
30	外圍	limites da classe			

非漢字圏出身の生徒にとって漢字の読みは大きな壁である。教科書で使用されている漢字熟語の用語がわからない場合、生徒は教員や支援者に読み方を確認したり、ルビを付けてもらったりしなければならない。しかし、デイジー教科書が日本語に通じない外国人児童生徒にも使うことができるようになれば、こうした漢字の読みの確認が容易くできるようになる。児童生徒にとっても指導する教員にとっても、負担が軽減できると思われる。

今回のアンケートでは質問項目に入れなかったが、【3】のその他の回答のように「教科の学力が教科書のレベルに達していない」というケースも多い。これは、母国での教育環境に課題<sup>8</sup>があったり、母国と日本の教育課程が異なり未習箇所があったり、母国で留年したり不登校だったり、様々な要因によるが、学年よりも下の内容を補習しなければならない場合が多い。下学年の教科書<sup>9</sup>が使えるようになると、こうした児童生徒の指導の助けになると思われる。

更にこのアンケートの結果からは、日本語指導の分野で ICT の活用が遅れていることもわかる。学校における日本語指導は「通級教室」であって、児童生徒が在籍する「学級」ではないため、教室環境がまだ十分整備されていない一面もある。豊橋市内の国際教室での指導では、「15 音声教材」も「16 デジタル教科書」もほとんど使われていない。他市町村の取り組みでも、ICT を活用している報告<sup>10</sup>を聞くことはあまりない。

7 「学校教育における JSL カリキュラム (中学校編) - 数学科 -」の「数学用語対訳一覧」(文部科学省 平成 19 年)  
 8 例えば、母国の学校について「1 クラスが 50 人を越えるような環境だった」、「先生がいなくて長い間授業がなかった」と言う生徒がいる。  
 9 日本語に通じない外国人児童生徒等の日本語指導は、NPO やボランティアの方達の支援に支えられている現状がある。そうした支援者や団体では、教科書を用意する余裕がない場合も多い。下学年の多教科の教科書を無償で使うことができる仕組みがあると、こうした支援者にとっても朗報となると思われる。  
 10 (独立行政法人) 教職員支援機構が開催している「外国人児童生徒等に関する日本語指導指導者養成研修」(今年度は、6 月 18 日～21 日)において参加者が提出している「外国人児童生徒等受入れ体制の概要」によって、各地域の取り組みの様子を伺うことができるが、ICT を活用している報告は見られない。

最後に、マルチメディアデージー教科書について尋ねた。

**【5】**マルチメディアデージー教科書は、通常の教科書と同様のテキスト、画像を使用し、テキストに音声をシンクロ（同期）させて読むことができます。ユーザーは音声を聞きながらハイライトされたテキストを読み、同じ画面上で絵をみることもできます。マルチメディアデージー教科書を知っていますか。



- 文字の大きさや書体を変更することができます。
- 背景色、文字の色を変更することができます。
- 漢字にルビを付けることができます。
- 読んでいるフレーズがハイライトします。
- 文を音声で読んでくれます。
- 読むスピードを変更することができます。
- 小学校1年から中学校3年までの、ほぼ全ての教科書会社の全教科の教科書に対応しています。
- 申請をして使います。無料です。

	使ったことがある	知っているが使ったことはない	知らない	詳しく知りたい
小学校	1人	11人	18人	11人
中学校	0人	4人	9人	11人

デージー教科書については、実際に使用したことのある教員はほぼ皆無であり、存在を知っていても使ったことがない教員や、全く知らない教員が圧倒的に多い。しかし、同時に詳しく知りたいと思う教員も多い。申請可能な対象者や申請方法などが広く広報されれば、実際に使う教員も増えると思われる。また、児童生徒本人や日本語が堪能でない保護者が、自ら申請を行うためには、多言語のパンフレットや申請書も必要になってくるだろう。

今回のアンケートでは、デージー教科書の特徴と日本語指導における支援方法において、一致する部分が多いことに改めて気付かされた。しかし、現時点では実際の日本語指導の場面でデージー教科書を使った報告は見受けられず、今後実践事例を集めて共有することも必要と思われる。